

2024年5月9日

## 2023年度 通期業績 決算説明会 Q&A

No.1	Q.	SiC の FY2025 売上予想を 1,300 億円→1,100 億円、FY2027 年売上予想を 2,700 億円→2,200 億円に修正した背景は？
	A.	SiC モジュール事業の立上げの遅れ、太陽光など産機の需要減少を受けて修正した。競合他社との価格競争が想定より早まったことも織り込んでいる。販売数量の見立てに大きな変化はない。
No.2	Q.	上記の修正を受けて、SiC 事業の収益性のついでアップデートは？
	A.	宮崎第二工場の投資の前倒しもあり、黒字転換の時期を FY2025→FY2026 に修正。FY2027-2030 の期間に営業利益率 25%を目指す。
No.3	Q.	SiC 売上の修正を受けて、収益性確保のための追加対応は？
	A.	第 5 世代・第 6 世代 MOSFET の開発によるデバイスの小型化と、8 インチライン立上げでカバーする。
No.4	Q.	SiC の価格競争は中国の競合との間で起こっている？
	A.	中国勢とは別の競合との間で起こっている。ウエハについては中国勢の影響も一定程度ある。
No.5	Q.	SiC の製造ラインを 6 インチ→8 インチにすることでどれくらいコストパフォーマンスが向上するか？
	A.	6 インチと比較して面積あたり 20-30%程度のコスト改善が見込まれる。
No.6	Q.	SiC のデザインウインは 6 ヶ月前と比較して増えているのか？
	A.	太陽光など産機の既存案件については 1 件あたりの金額は落ちる見込みだが、自動車パワートレイン向けのデザインウインの案件が新たに増加している。
No.7	Q.	SiC について単年の設備投資額及び償却費の金額はいつごろがピークとなる見込みか？
	A.	設備投資額は FY2025 がピーク。償却費の絶対額は FY2026-2027 まで増加するが、対売上比率でいえば FY2025 がピークとなる。
No.8	Q.	FY2024 の売上について、産機と民生の減少が継続する理由は？
	A.	産機や民生の家電などは伸ばしていきたいと考えているが、お客様の在庫状況や市況環境を勘案し、厳しめに見積もっている。
No.9	Q.	自動車以外の市場は FY2025 以降に回復するのか？
	A.	産機・民生・C&S いずれも FY2025 上期から回復する見込み。
No.10	Q.	FY2024 の稼働率の見通しは？
	A.	LSI・ディスプレイとともに上期は低くなるが、下期には回復に向かう見込み。
No.11	Q.	FY2024 の営業利益の前年比減少の要因に固定費の増加 368 億円があるが、この増加は一過性的なのか、それとも今後はこの水準で継続するのか？
	A.	368 億円の増加のうち、350 億円が SiC 関連で宮崎第二工場や筑後工場のライン立ち上げが影響している。
No.12	Q.	FY2024 の研究開発費が前年比 109 億円増の計画となっているが、今後もこの水準で推移するのか？
	A.	増額の内訳はほとんど SiC だが、FY2024 がピークとなり以降は減少の見込み。
No.13	Q.	東芝の業務提携について、6 月に協議開始して 1 年を目途に方向性を見出したいとコメントしていたが、時間軸が早まる可能性は？
	A.	東芝とは様々なシナジーを産み出せると思うし、決定事項はなるべく早めに関示したいと考えているが、現状は説明会資料の内容以上にコメントできることはない。業績予想に織り込んでいる項目もない。